

「若手交流会」開催のお知らせ

政治経済学・経済史学会における若手研究者の学会活動を活性化させるため、秋季学術大会に合わせて以下の要領で「若手交流会」を開催します。若手研究者の方々をはじめ、会員各位の幅広い参加を呼びかけます。

研究委員長

- 【日 時】 2019年10月11日（金）17時00分～18時50分
- 【場 所】 東北大学総合講義棟2階第3小講義室
- 【テーマ】 国際学会での報告——応募時から会期後まで
- 【ゲスト】 鎮目雅人氏（日本経済史）（早稲田大学）
森宜人氏（外国経済史）（一橋大学）

趣 旨

国際学会での報告や議論への参加は、国内学会の場合よりも概してハードルが高く苦勞が多いものですが、経験を積みながら慣れるうちに、得ることも多くなっていくものでしょう。この経験とは、開催案内・報告募集といった情報の収集から、応募書類作成のコツ、採択決定後の報告準備、会期中の自分の報告や他報告の聴講・討論、そして懇親会その他の会場内外での行動、さらには会議終了後の交流などまで多岐にわたります。

これらさまざまな経験は、各自が場数を踏みつつ、自分のペースで徐々に慣れながら蓄積していくのが望ましいのは言うまでもありません。ですが、海外（特に英語）での業績が急速に重視されてきている昨今、残念ながらマイペースで取組むだけでは不十分になりつつあるとも言えるでしょう。経験の少ない若手にとっては、どのような国際学会が存在するのか、各学会の特徴とは何か、といった基本的な情報の整理すら容易でない中、多少とも焦りがつのっているのではないのでしょうか。また、既に経験を積みつつある若手は、研究の幅を一層広げるため、会期中に知り合った研究者との国際的交流、あるいは経済学など関連分野の学会での報告にチャレンジする必要なども感じていることでしょう。

そこで今回の若手交流会は、経済史研究者にとっての国際学会での報告の意義やノウハウを考え、話し合う場として、国内外いずれでも積極的に研究成果を発信なさっているお二人の研究者——鎮目氏は近代日本金融史がご専門、森氏は近現代ドイツ都市史がご専門——をお招きし、研究遂行に必要な国際学会への参加の姿勢についてお話いただきます。そして、お二人のご経験や問題意識をもとに、参加の皆さん全員で今後の若手の国際学会への参加の姿勢について話し合い、数々のノウハウや問題点を共有すると共に、それらについて、はばかりなく意見を交換することができればと思います。

※会の終了後には懇談会もありますので、そちらへもふるってご参加ください。

問い合わせ先) 大塩量平 (oshio☆ic.daito.ac.jp) ☆を@に変えてください。